文化財をたずねて

太市めぐり

横坂と横坂の石地蔵

横坂は現姫路市のどの辺りか？

（一六四〇）木仏等が安置されている。

堂内には天正三年（一五七五）建立という。来歴は不明。

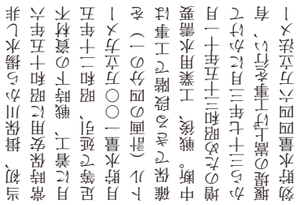
専光寺と石棺

浄土真宗本願寺派、山号西脇山、赤松満祐家臣の是川開進子息の円智が蓮如上人に帰依し、天文十五年（一五四六）建立。本尊阿弥陀如来は、高さ一三センチの地蔵立像で、「来正十年（一五一三）」銘の光背を背負っている。

華座上に安坐し、珍しい三体一組の舟形石造物である。

上段神仏境界の小祠に安置。

西脇の石仏



側壁と推定。

石材で大規模な舟形の外郭。

向かって左に「寛政八年」の銘。像容の向かって左に「来正十年（一五一三）」銘。像高一三二センチの地蔵立像を持つ。

月日「紀年銘を陰刻。

西脇廃寺跡

塔跡。「ふとは塔屋敷」と呼ばれる処に塔心礎。ふとは塔屋敷中央付近にあるが、耕作の障害ならば現在地に移設。長径一二五センチ、短径一一五センチ、表面の ほぼ中央に直径一八センチ、深さ三八センチの刻。

深さ一一センチの円形孔がある。

礎構は消滅、瓦類も検出されていないが、塔心礎の形状から西脇廃寺は奈良時代の創建と推定。

西脇古墳群

姫路市教育委員会発行

姫路市文化財保護協会編集

姫路市

呂智（大市）駅家

十世紀前半の法令書「延喜式」記載の駅家。

「延喜式」では、「播磨国風土記」に「大市駅」として記載。

「大市」は、「市場」の意。

一つ前の駅家は「大市」。

駅の位置は、「大市」の西方約二十五キロ。

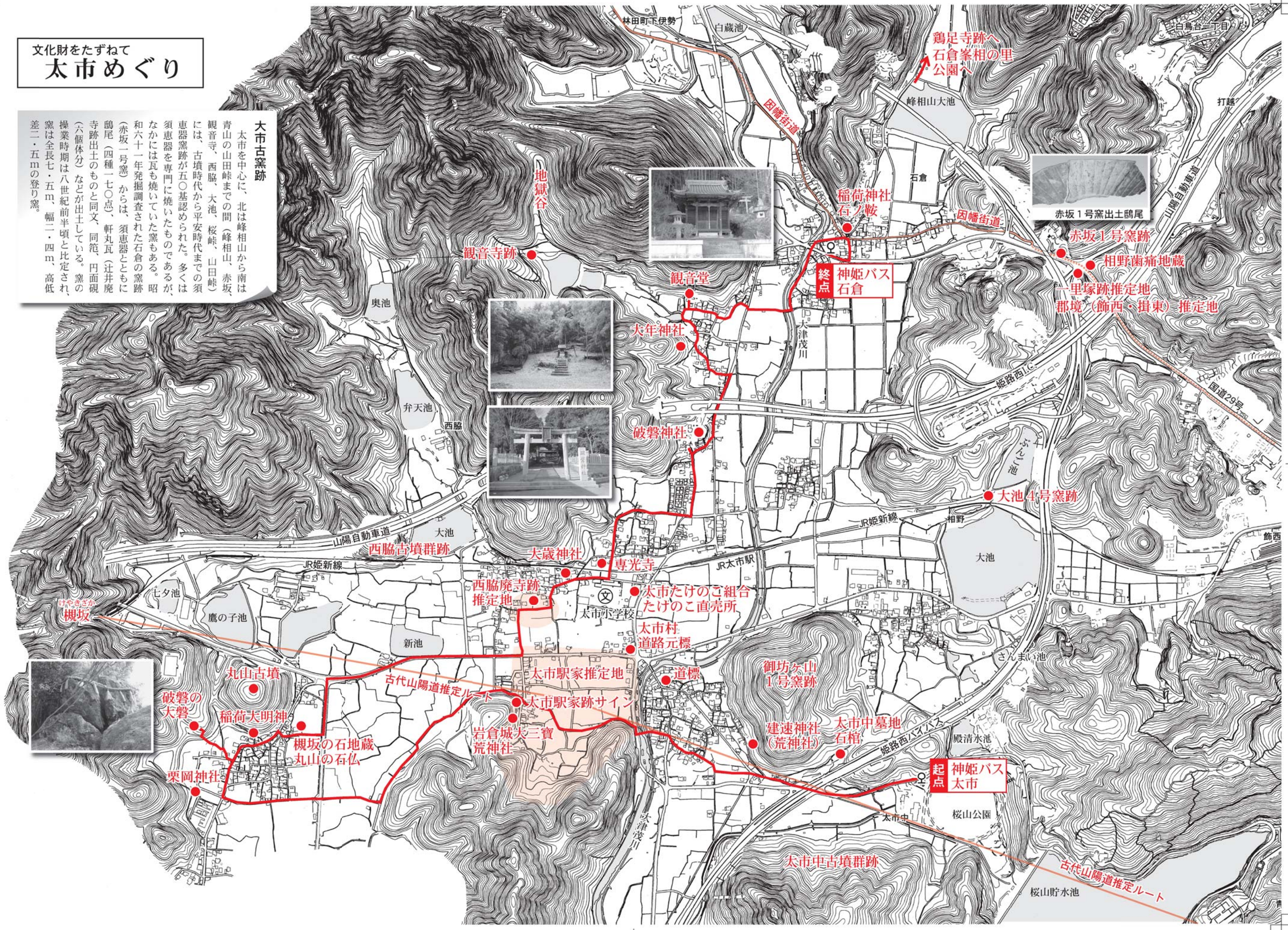
「大市」は、「大市」の中、西脇から姫路を越え布勢駅（ズバの中揖西町ドル）に至る。

大市中臺地の石棺

公営住宅の建設が進み、「大市中臺地の石棺」は、構図を細工の「宮廻り図」は、構図を細工の「宮廻り図」は、構図を細工の「宮廻り図

文化財をたずねて

太市めぐり

大市古窯跡

太市を中心に、北は峰相山から南は青山の山田峠までの間（峰相山、赤坂、観音寺、西脇、大池、桜峠、山田峠）には、古墳時代から平安時代までの須恵器窯跡が五〇基認められた。多くは須恵器を専門に焼いたものであるが、なかには瓦も焼いていた窯もある。昭和六十一年発掘調査された石倉の窯跡（赤坂一号窯）からは、須恵器とともに鵡尾（四種一七〇点）、軒丸瓦（辻井廃寺跡出土のものと同文、同笵、円面硯（六個体分）などが出土している。窯の操業時期は八世紀前半頃と比定され、窯は全長七・五m、幅二・四m、高低差二・五mの登り窯。